

漁業新技術開発事業選択漁具・漁法新技術の開発*

－小型底曳網選択漁法システムの開発－

田中 嘉治

目 的

この事業は沿岸漁業における資源管理型漁業を効率的に推進する上で必要な選択・漁法技術の導入等をはかるために、新たな選択技術を用いた選択漁法システムを開発することを目的として行われた。そのために、和歌山県と岡山県における小型底びき網漁業を対象として実施され、本県では、箕島町漁協所属の「タチウオ網」の選択システムを開発することを目的とした。

事業実施主体は社団法人漁船協会、水産庁の補助事業の初年度として行った。この事業を推進するために、技術検討委員会、現地検討委員会が組織された。本県は主にタチウオの生態的・漁場的な知見を取りまとめることし、漁法開発そのものは泰東製鋼株式会社が担当することとした。

なお、詳細については、「平成7年度漁業新技術開発事業（資源管理等沿岸漁業新技術開発事業）選択漁具・漁法技術の開発報告書」に事業全体および本県の事業結果が報告されている。

方 法

初年度であるので、タチウオの漁業生物学的な知見を文献等により調査したほか、資源管理型漁業に対する取り組み状況を整理することにより漁法開発がどのような課題を持つかを検討した。更に、標本船調査、漁獲量調査および体長組成調査を行い、最近のタチウオ漁獲実態を検討した。

また、泰東製鋼株式会社が行った漁具計測、模型実験等にも参画した。

結 果

1. 紀伊水道産のタチウオの年齢と成長、成熟と産卵、食性および漁獲開始年齢等の漁法開発に必要な漁業生物学的知見を整理した。

2. 資源管理の手法として、平成4年度以降網目の拡大に取り組んだが、その結果、非常に漁獲金額が落ち込む月があることおよびその原因は、この漁法の操業形態から最初の一網の小エビ類等の漁獲量が、網目拡大により大きく減少している恐れが強いこと等を明らかにした。

3. 標本船調査から今年度は、漁獲量が非常に少なく、銘柄別の漁獲量から春子群が少なかったことが原因と考えられ、同時に行った体長組成の月別調査からもこのような傾向がみられた。

* 資源管理等沿岸漁業新技術開発事業費による。